



「AIとESG投資」

人工知能（AI）の活用が現実化してきました。チェスや将棋の「棋士がAIに負けた」記事を見て「そうだよな、時間の問題だった」とその時が来たと感じられた方も多くいたのではないのでしょうか。ある米国の研究によると近い将来、一部の職業がこのAIに取って代わると予測しています。かなり乱暴ですが主な業種として「小売店販売員、会計士、一般事務員、販売員、秘書、レジ係など」が挙げられています。総じてその業種の一部が機械に置き換えられるAI化が実現すると社会全体に大きな影響を与えそうです。

AIは日々能力が向上しています。最近では自動車業界において、将来に向けた研究開発（R&D）費はAI対応も含め一兆円以上を投じる企業も出てきました。また、一企業では対応できない膨大なR&D投資が負担になるため、数社が連携して対応する動きもあります。米国では大手IT企業は積極的にR&D投資を行い1社単独でも一兆円を超え、異業種である自動車業界へ自動運転のAI活用が広がっています。競合する企業は同業だけではなく、ますます競争は激しくなっています。

金融業界の周辺でAIの状況を見てみると、すでに投資家がAIを活用し株式の売買を行っています。しかしその内容は株価予想が数日または数週間といった短期志向のテクニカルな投資となっています。アベノミクスの推進による長期投資を促す非財務情報を重視した、ESGインテグレーション投資(*)とは全く別の動きです。何よりもスチュワードシップ・コードによる「投資家による受託者（説明）責任」を果たすこと

が出来ません。一方、AIが得意とする定量的な分析であれば大いに力を発揮するでしょう。二酸化炭素の排出量など環境データや人権・格差・ダイバーシティなどの社会性、そして社外取締役・女性役員の割合などガバナンス関連の定量化された情報分析は有効です。

急速に進化するAIですが当分ヒトに代われそうにないのが資産運用マネージャーによる「企業との対話」ではないのでしょうか。財務数値の結果の背景や見通し、また将来ビジョンとその背景、そしてどのような経営上のリスクがあるのかなど、直接対話することでエンゲージメントを図る。その実施と判断は大変に重要な役割で、ヒトならではの能力と言えます。AIの活用を含め技術革新が次々と進む中で、資産運用の世界でも画期的イノベーションが起こる事が期待されます。

世界最大規模の機関投資家である年金積立金管理運用独立法人（GPIF）は、私たちの大切な年金資金を運営しています。その資金の運用を任される運用会社のマネージャーが担う範囲とAIが得意とする情報分析が融和することで、従来の財務情報に加えESG情報の分析が有効になれば、長期軸での投資先を判断する精度が高まるでしょう。企業もESG面も含めて魅力ある会社であるための努力を続け、投資家との対話も積極的に行うことが望まれます。AIとESG投資が社会にとって良い循環に繋がることを期待します。

※ESGインテグレーション投資：投資分析と投資の意思決定のプロセスにESGに関する情報を組み込むこと

（文責：ESG/統合報告研究室 上席研究員 大津 克彦）